

一人旅で出会った夫と別居中の女性と宿へ直行

朝まで汗だくでセックス

前々から計画を練っていたわけではない。

ふと、だった。直前の思い立ちで海の近くの宿をネットで予約。

シンジは、趣味で続けている写真を撮りたいということもあり、海へ一泊の一人旅へ向かった。

車で3時間走らせる。都心にはない大自然が次第に広がっていく様は心を広くした。

スマホのマップを見ると、予約した宿から徒歩30分くらいの場所に良さそうな浜辺があった。

夏の旅行客、子供たちで賑わう海水浴場もすぐとなりにあったが、夏の終わり、人は少なかった。

強い風が吹いた。風の方を探るようにシンジが振り向くと、浜辺の手前、防波堤のコンクリートの上を海の方を見ながら歩く女性が一人。

遠目からでも少し寂しそうに見えた。

せっかくの遠出の旅。楽しい思い出にしたい。ということでシンジは声をかけてみることに。

快く返答してくれた女性。名前はミサコさんという。

現在夫と別居中で寂しいとミサコさん。やはり顔に現れていた通りだった。

「寂しいんですか・・・」

ごくりと生唾を飲むシンジ。

ミサコさんのキャミソールの胸元は程よいバランスでふくらみを帯びている。

軽く汗ばんだ首筋。ほのかに香水の香りがした。

海辺の潮のにおいに混ざり合っただけでなんだかドラマチックな気持ちが生まれたりする。

ふとシンジは写真の趣味のことを話す。

「へー、良い趣味持っているのね」

しばらくシンジの話を聞き入った後、ミサコさんは軽くうつむく。心に影が見えた。

だけど気持ちを切り替えるように、シンジが見せたスマホのブログを見ながらミサコはシンジに微笑んだ。

————— 体験版はここまでです。 —————